

# 日田 川・まち みらいづくり懇談会

～庄手地区川づくりワークショップ～

平成19年1月16日

# 庄手地区川づくりワークショップの 進め方について

# 日田川・まちみらいづくり懇談会の目的

治水面  
の課題

利用面  
の課題

環境面  
の課題

まちづくりの  
課題

川づくりとまちづくりが一体となった

『日田川・まちみらいづくり』

具体的なプログラムとして  
懇談会では

現在の川の課題や地元の方の要望を踏まえ、  
未来へとつなげていく

『日田川・まちづくりプラン』の作成

# 日田川・まちみらいづくり懇談会のメンバー

## 【懇談会のメンバー】

### アドバイザー

小松教授(九州大学)、矢野助教授(九州大学)、仲間助教授(九州工業大学)

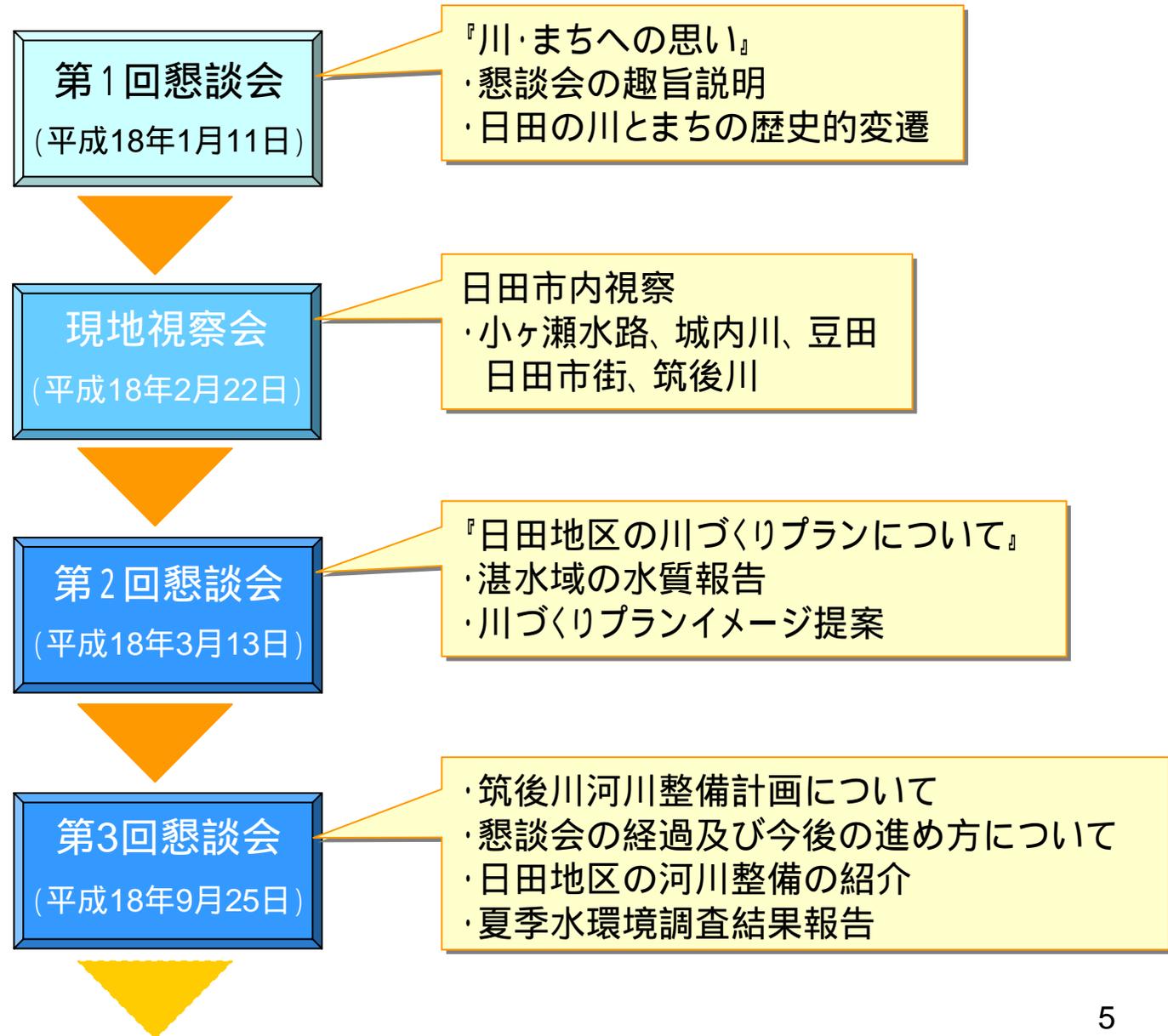
### 委員

日田市観光協会、NPO法人ひた水環境ネットワーク、日田の川を考える会、  
日田漁業協同組合、温泉旅館組合、高瀬振興協議会、五和振興協議会  
三芳振興協議会、竹田地区自治会長会、隈庄手地区自治会長会、光岡自治会長会  
21世紀まちづくり委員会、西有田振興協議会、豆田地区振興協議会 の代表方々  
(順不同)

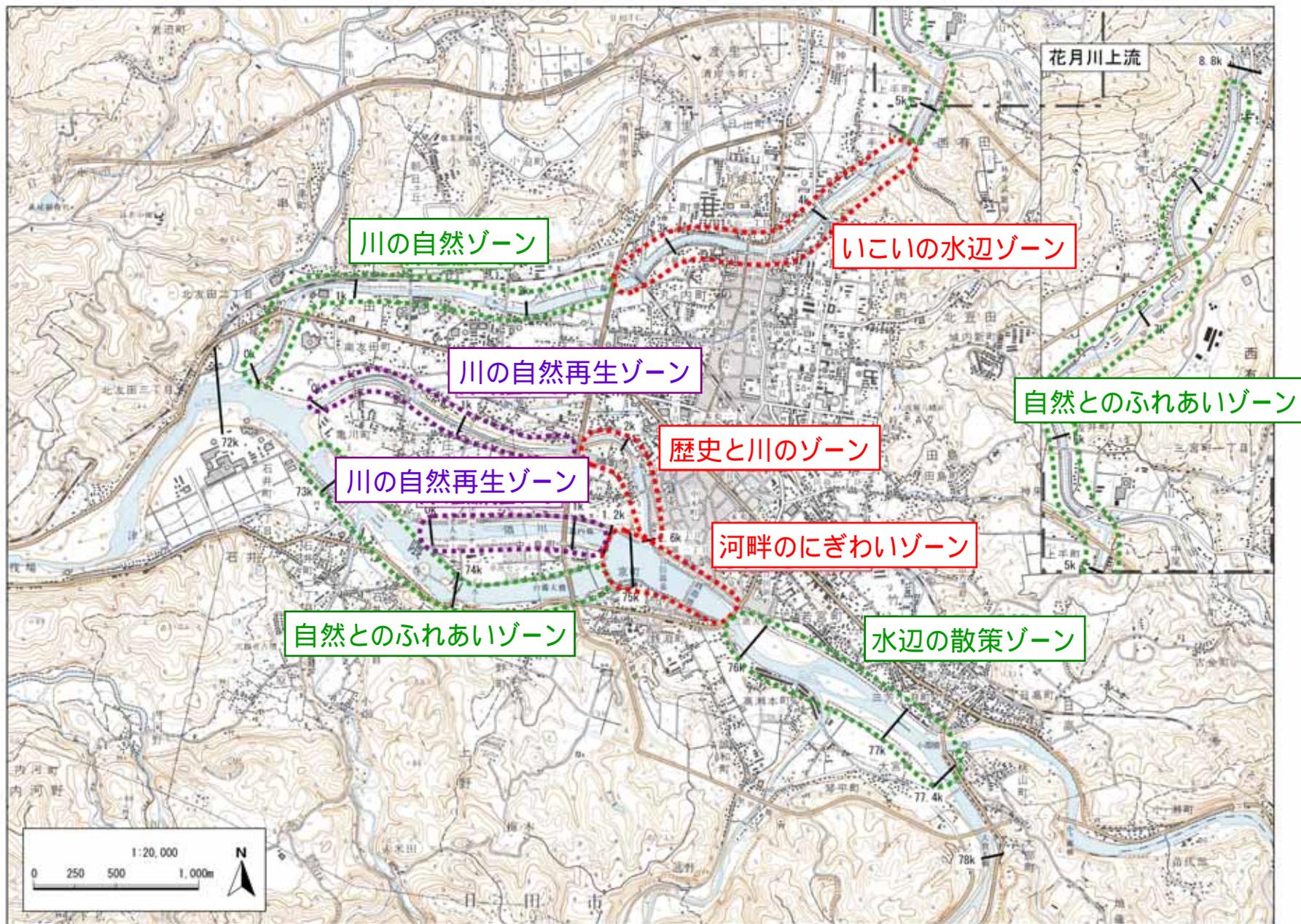
### 事務局

筑後川河川事務所、日田市役所

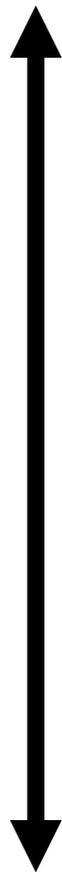
# 日田川・まちみらいづくり懇談会の経緯



# 川づくりプラン全体ゾーニング図(素案)



# 今後の川・まち・みらいづくり懇談会の進め方



平成18年～平成20年

平成20年度

かわ・まち・みらいづくり懇談会

検討

< 各検討部会 >

- ・河川利活用検討部会
- ・三川分派対策部会
- ・水環境部会
- ・まちづくり部会
- ・景観検討部会

必要に応じて部会を設置

川づくりプランの作成

# 今年度の懇談会の進め方

これまでの、現状と課題、懇談会での意見や整備コンセプト(案)を踏まえて、今年度は、下記の**2つ**の**こと**について、重点的に議論していきましょう。

## 検討テーマ

### 三川分派の適正化部会

#### < 部会メンバー >

・九州大学、国土交通省

- ・平常時の三川分流の実態の把握
- ・庄手川の適正な平常時流量
- ・適正分派の施設対応策の検討
- ・水環境の実態調査
- ・水質改善検討
- ・土砂管理計画検討

### 庄手かわづくり部会

#### < 部会メンバー >

・九州工業大学、  
庄手川沿川住民の皆様

- ・庄手川の川づくりについて検討
- ・まちづくりと一体となったデザイン検討
- ・利活用の方向性の検討
- ・利活用の具体案
- ・持続的な利用を行うための仕組みづくり

# 庄手地区川づくりワークショップの目的について

庄手地区川づくりワークショップは、庄手川周辺の住民の皆さんとともに、庄手川の将来像について考え、河川整備のイメージを示した「川づくりプラン」を作っていきたいと考えています。

## 目的

- ・庄手川の川づくりプラン(案)の策定
- ・まちづくりへの提案

## 検討内容

- ・庄手川の川づくりについて検討
- ・まちづくりと一体となったデザイン検討
- ・庄手川の利活用についての検討
- ・持続的な利用を行うための仕組みづくりの検討

# 庄手地区川づくりワークショップの進め方について

## 【ワークショップのメンバー】

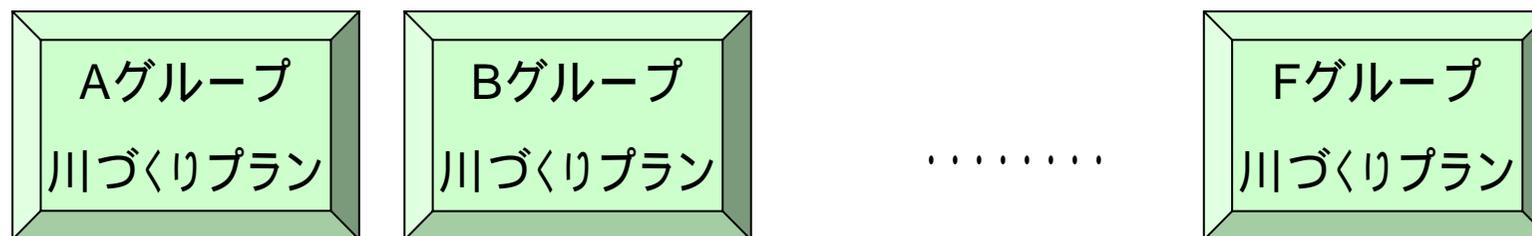
- ・庄手川周辺の住民の皆様
- ・九州工業大学
- ・筑後川河川事務所
- ・日田市役所

## 【ワークショップの構成】(グループ討議時)

- ・コーディネーター : 杉町
- ・アドバイザー : 仲間助教授、梶原一夫(日田漁協)、望月

グループ	メンバー	九工大学生 日田市役所	ファシリテーター	
A	8名	1名	1名	
B	8名	1名	1名	
C	8名	1名	1名	
D	8名	1名	1名	
E	8名	1名	1名	
F	7名	1名	1名	
計	47名	6名	6名	

# 庄手地区川づくりワークショップの進め方について



参加者が6グループに分かれて各グループ毎に庄手川の川づくりプランを検討

全体で議論し1つにまとめる

庄手川かわづくりプラン(案)

地域住民に説明・意見聴取

庄手川かわづくりプラン策定

# 庄手川川づくりプランとは？

「庄手川かわづくりプラン」とは将来の庄手川の姿（利活用・景観など）について議論し、どのようにすればそれらが達成できるかを具体的に絵にしたものです。



# 庄手地区川づくりワークショップの進め方について

## 【ワークショップのスケジュール】

第1回（1月16日）

- ・ワークショップの進め方、庄手川の現状把握、意見交換

第2回（1月25日）

- ・どのような庄手川にしたいか、庄手川に対する思いについて、川づくりプラン（案）について **〈グループ討議〉**

第3回（2月21日）

- ・川づくりプラン（案）について **〈グループ討議〉**

第4回（3月中旬）

- ・各グループの川づくりプラン（案）を発表、全体討議

# 庄手地区川づくりワークショップの進め方について

## 【ワークショップのスケジュール】

各グループの意見を集約した  
川づくりプラン(素案)を作成

第5回(5月頃)

・川づくりプラン(素案)の提示、川づくりプラン(素案)について討議

地域住民の方から意見聴取

第6回(7月頃)

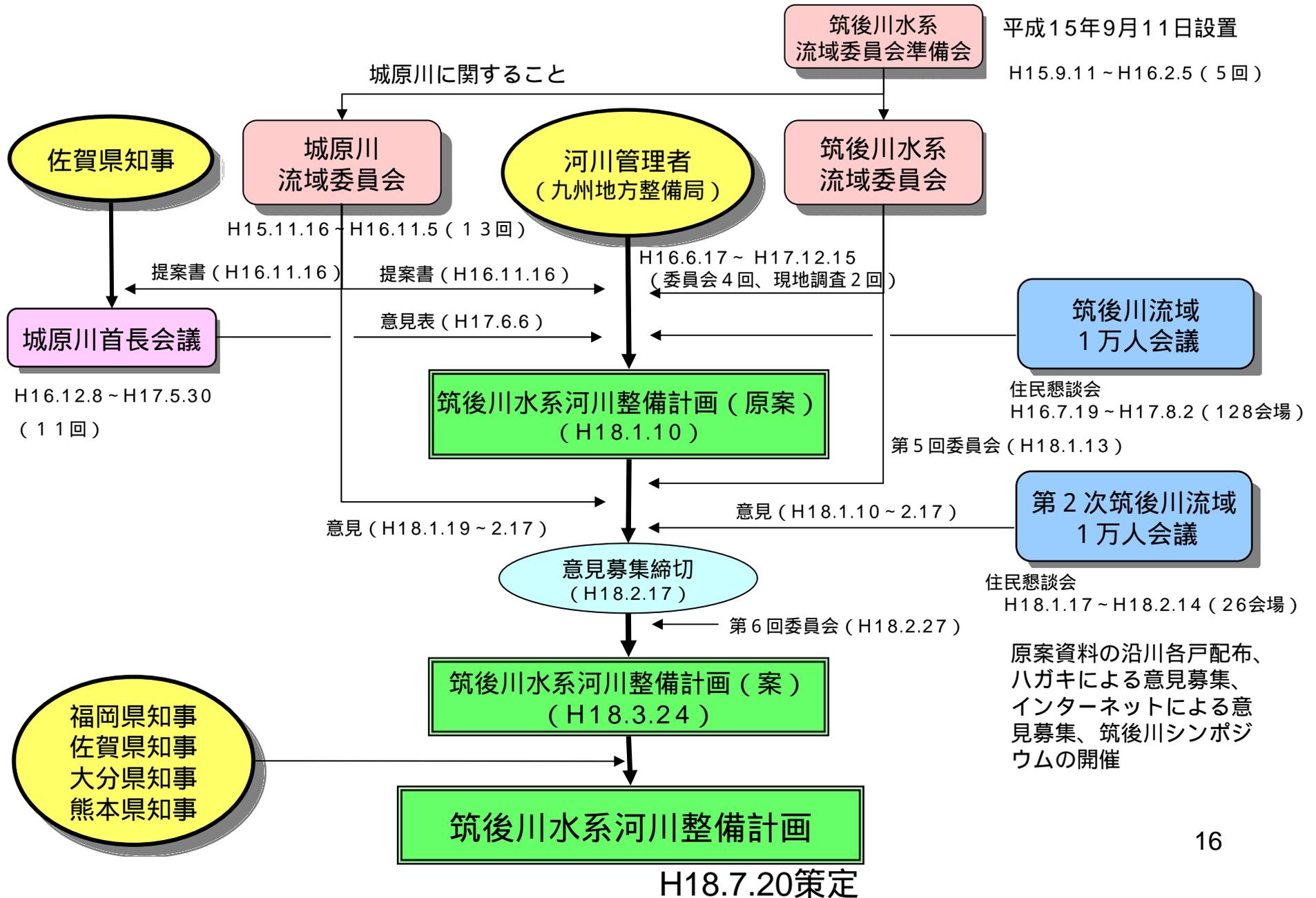
・川づくりプランの策定

川づくりプランをもとに、具体的な川づくりについて継続して検討

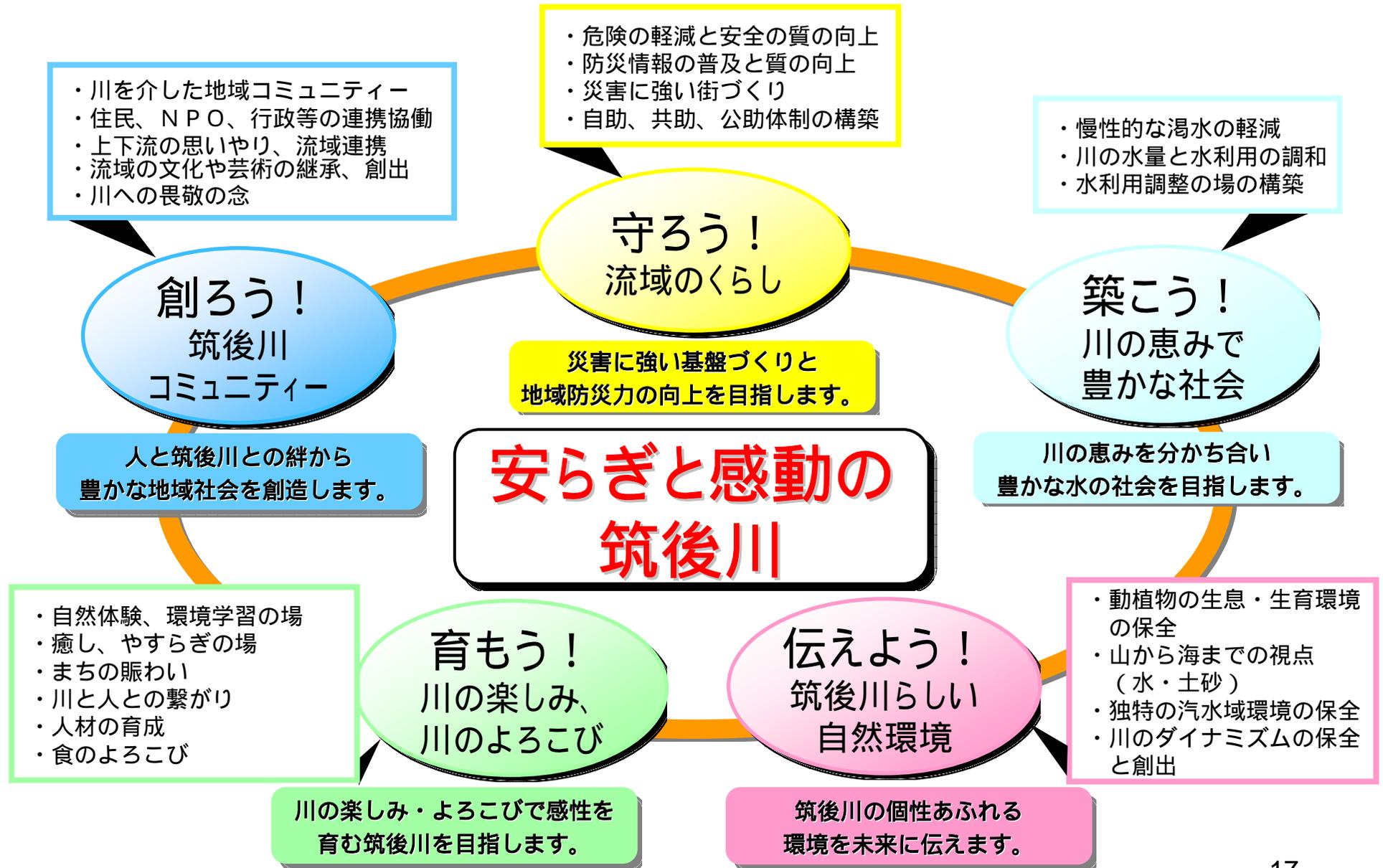
# 筑後川水系河川整備計画について

～ 庄手川の河川整備の考え方について ～

# 筑後川水系河川整備計画の策定までの流れ



# 河川整備の基本理念



流域の視点で、これらを一体的・総合的に取り組みます。さらに筑後川が創り出した歴史的・文化的環境に配慮します。

# 河川整備計画における庄手川に関する記述

【河川整備計画 93ページ】

## 4 河川の整備の実施に関する事項

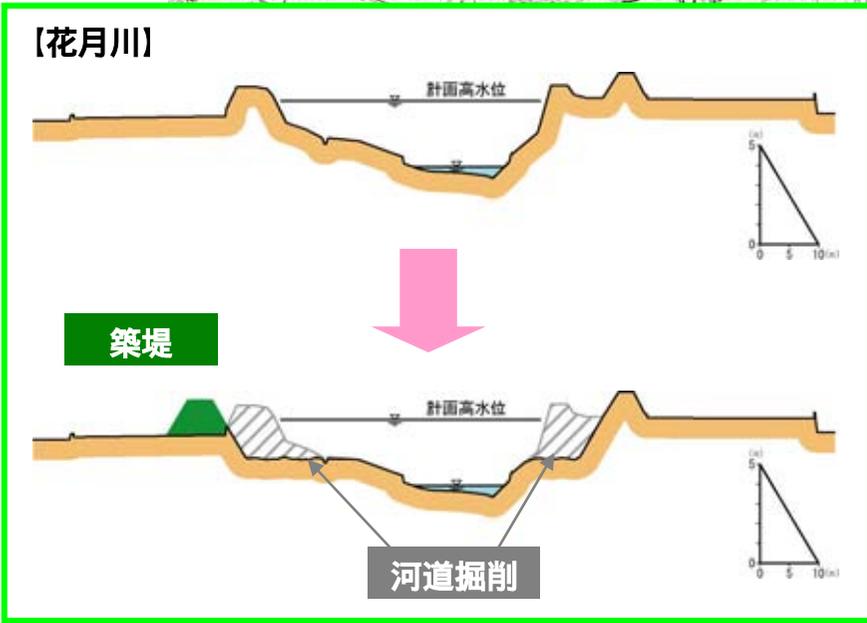
4.2 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設等の機能と概要

### 4.2.1 洪水、高潮対策に関する整備 (1)河道の流下能力向上

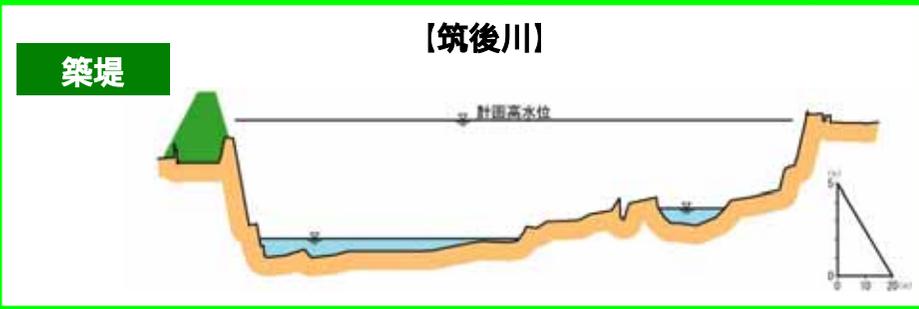
#### 【夜明けダムから上流の区間】

日田市石井町及び高瀬町等において、堤防の高さ・幅が不足しており、洪水を安全に流下させることができないため、築堤等を実施します。

庄手川においては、洪水が過剰に流入することから筑後川(三隈川)、隈川及び庄手川の分流量の適正化を図るため、必要に応じて庄手川への流入を規制する堰の整備、三隈堰の改築及び導流施設等の整備並びに庄手川における築堤や堰改築等を実施します。



凡 例	
	築堤等
	河道掘削



## 日田市街部の河川利用の促進

- 庄手川への分流量の適正化を図り、平常時の流速を低減するとともに、多自然型護岸等を整備し、親水性の向上を図ります。
- 日田市内の河川は景観に対する配慮が重要であるため、良好な河川景観の創出に向けた環境整備を行います。



台霧の瀬(日田市)

筑後川の親水空間として整備された「台霧の瀬」は、地域住民の発想と参加により造られました。



庄手川沿いの建物(日田市)

庄手川沿いの隈町は、川と建物が調和した歴史20的な景観を呈しています。

## かわまちづくりの推進

•地域の歴史、文化、景観及び観光資源等と調和を図り、地域の活性化・発展につながるよう、「まちを元気にする川づくり」をコンセプトに、まちづくりと一体となった河川整備を進めます。



新しい祭りが始まった花月川(日田市)



人々の利用が増えた花月川(日田市)

花月川(日田市)の河川整備によって、川沿いは、子供からお年寄りまでたくさんの人々に利用されるようになりました。また、観光地「豆田」の町並みと調和した花月川の誕生によって、地域では新たな祭り「千年あかり」も始まりました。

# 流域における連携体制の構築



**100万人の川守りさんが支える**  
「安らぎと感動の筑後川」へ

# 三川分派の適正化がなぜ必要か？

日田市では、筑後川が**筑後川(三隈川)**、**隈川**及び**庄手川**に分派しています。



# 三川分派の適正化がなぜ必要か？

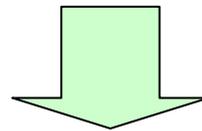
三川分派に関する課題として、

洪水時に、**庄手川**に過大に分流しており、洪水時に越水する可能性のある箇所もあります。

## 〔洪水時の三川分流比〕

平成17年7月の洪水(小淵地点流量:3,110m<sup>3</sup>/s)では、

<b>庄手川</b>	：	<b>隈川</b>	：	<b>筑後川</b>
<b>1</b>	：	<b>7</b>	：	<b>2</b>
(280m <sup>3</sup> /s)		(2420m <sup>3</sup> /s)		(510m <sup>3</sup> /s)



洪水時の適正な三川分派對策が必要

# 三川分派の適正化がなぜ必要か？

三川分派に関する課題として、

平常時に、**庄手川**に過大に分流していることから、流量が多く、流速も速いため、川の中で遊べず、危険であり水際に近づけない状況です。

## 〔平常時の三川分流比〕

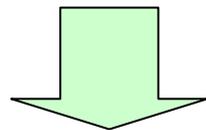
平常時(平成18年3月6日)では、

**庄手川** : **隈川** : **筑後川**

**4** : **1** : **5**

(8.7m/s) (1.8m/s) (10.9m/s)

〔平常時の流速は、**約1.2m/s**〕

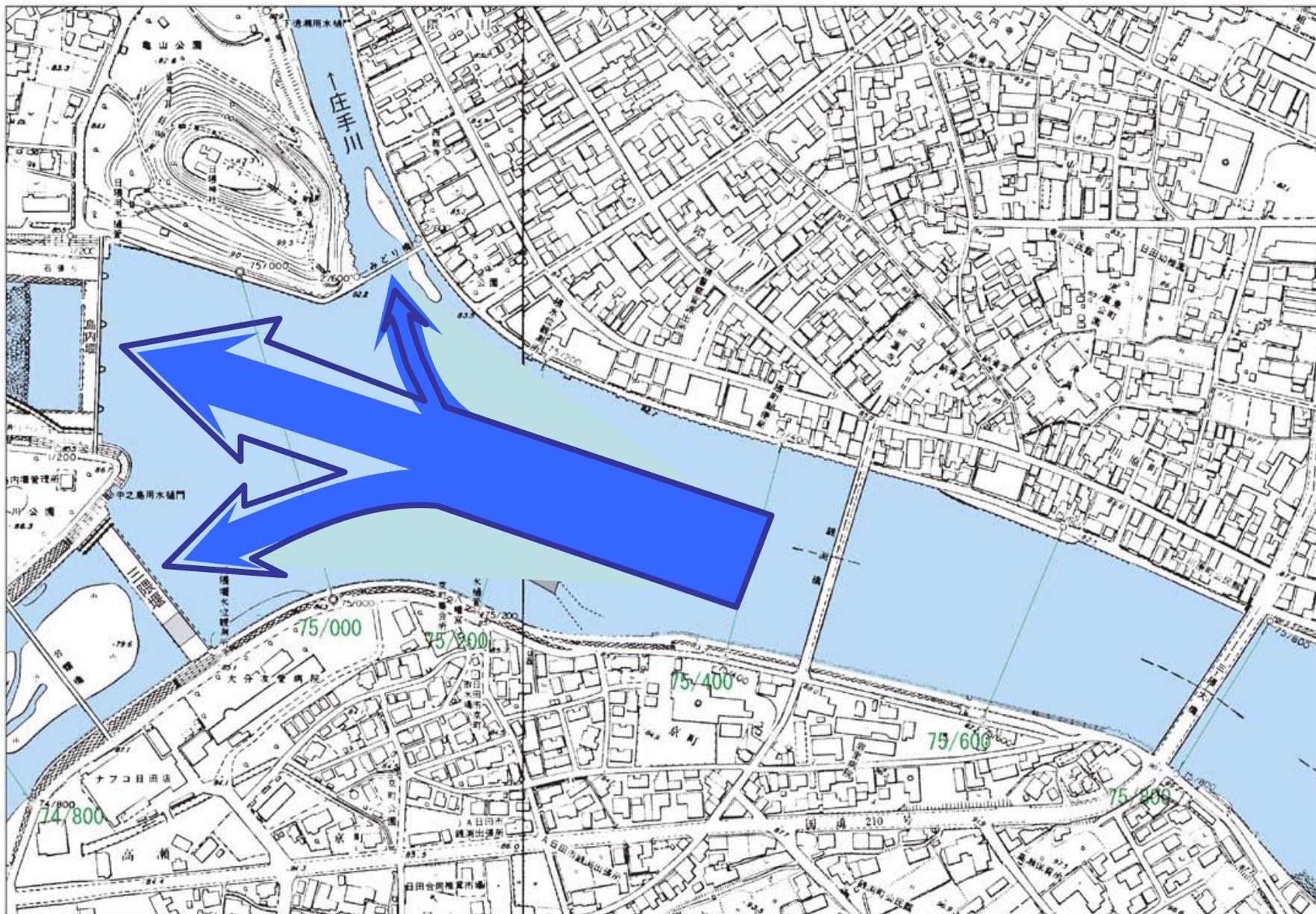


平常時の適正な三川分派対策が必要



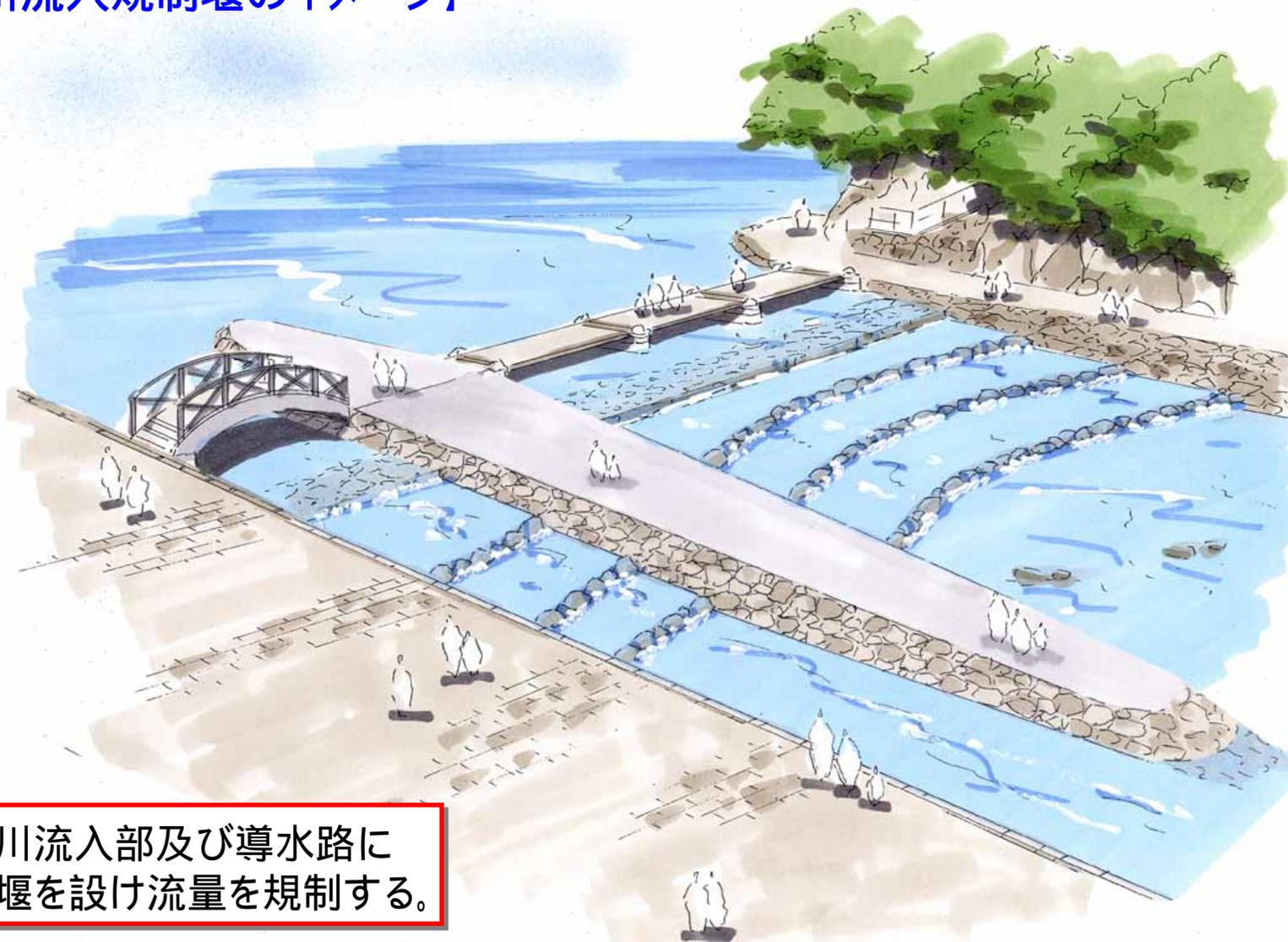
# 三川分派対策工とは

適正な分派量とするための対策について現在検討中です。



# 三川分派対策とは

【庄手川流入規制堰のイメージ】



庄手川流入部及び導水路に  
規制堰を設け流量を規制する。

# 三川分派を適正化するとどうなるのか？

## 三川分派を適正化

洪水時の庄手川への分派量が減り、**治水安全度が向上**します。  
平常時の庄手川への分派量が減ることで、流速が減少し、水深が浅くなるため、**川の中で遊んだり、水際に近づき易く**なります。  
現在の人工的な流れとなっているものが、より自然なものとなり、**景観が良くなる**ります。

### 〔平常時の流速と水深〕

	現在	カヌー遊び	水遊び
流速：	1.2 m/s	0.8 m/s 程度	0.7 m/s程度
水深：	0.74 m	0.45 m 程度	0.35 m 程度

庄手地区川づくりワークショップにおいて検討して  
いただきたいこと！

**〔検討していただきたい事項〕**

庄手川の日頃の利活用をどうするか

庄手川を環境をどうしていくか

**〔検討にあたっての条件〕**

治水対策としては、三川分派対策と合わせて検  
討中

堤防については現在の位置を変えないことを前  
提とする。

# これまでの日田の取り組み

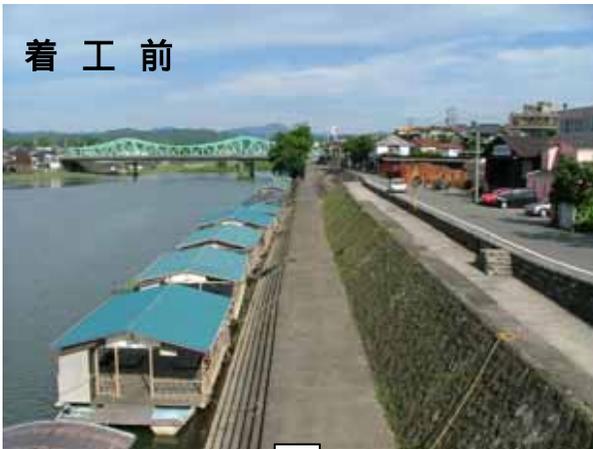
# 「対話と協働による川づくり」の事例紹介

## ～ 日田地区河川環境整備事業（その1）～

「日田地区河川環境整備事業」とは、環境学習の場、憩い空間の創出及び水辺へのアクセスづくり等の河川利用の場を整備する事業であり、平成20年度まで、散策路や親水性護岸等の整備を実施する計画です。

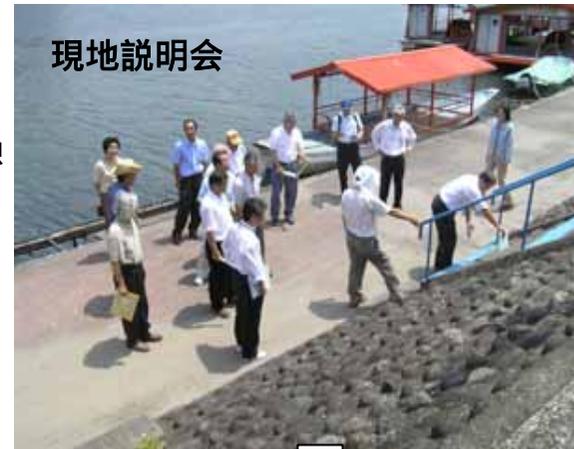
### 計画・設計

#### 着工前



着工前の状況写真。  
歩行者が休憩するスペースがなく、護岸に苔等が繁殖し荒廃した景観となり、憩いの場としての利用者が少ない。  
また係留ロープが通路を横断し、歩行者の障害となっている。

#### 現地説明会



整備予定箇所でも「川づくり意見懇談会」を実施し、課題等について再認識するとともに、細部構造についても意見を伺う。  
・自然石護岸の配色  
・石積み工法への配慮  
等

#### 川づくり意見懇談会



地域住民を主体とした「川づくり意見懇談会」を設置し河川整備に関する様々な意見等を伺い設計に反映。  
・憩いの場としての整備  
・周辺景観との調和  
・川を望むベンチ等の整備  
等

#### パース図完成



「川づくり意見懇談会」でだされた意見を基に設計図し作成。また住民の方が完成予想をイメージしやすいようにパース図を作成。

# 「対話と協働による川づくり」の事例紹介

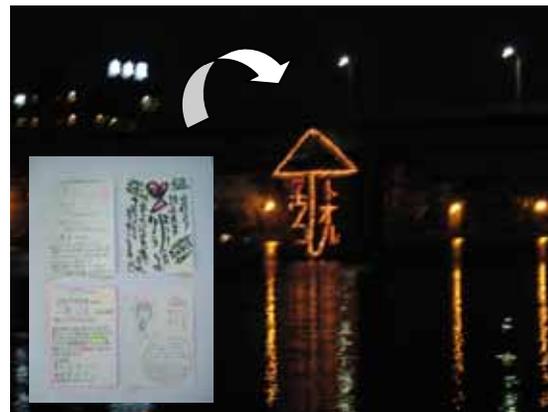
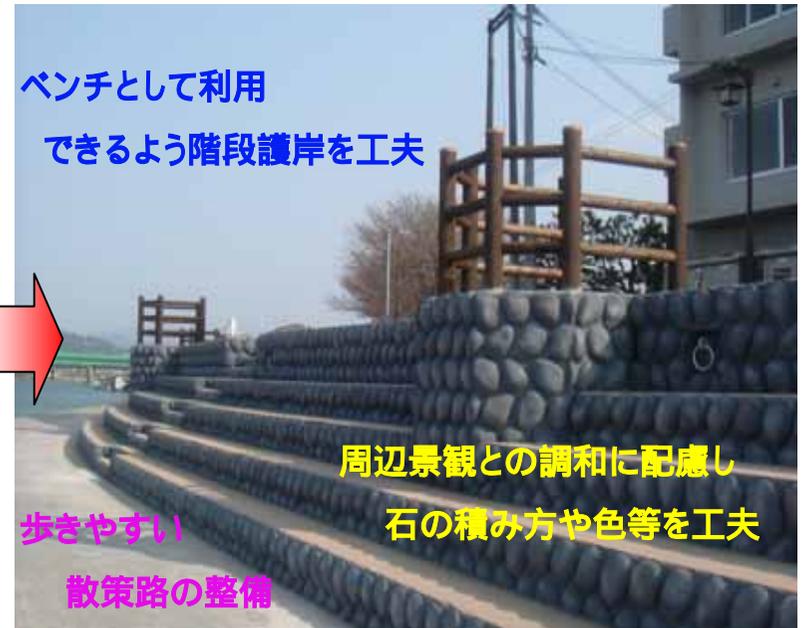
～ 日田地区河川環境整備事業（その2）～

施工～完成



工事概要、施工工法など記載した説明看板を設置。また、定期的に住民の方を対象にした現地説明会を実施し、施工工法及び進捗状況等を説明。  
現場説明会で出された意見等については、現場で可能な範囲で対応。

ベンチとして利用  
できるように階段護岸を工夫



工事のイメージアップをはるため、施工業者と協力して道路脇の樹木にイルミネーションを設置。また2月14日に事前に公募し当選したカップルの名前をライトアップするイベントを実施した。

# 「対話と協働による川づくり」の事例紹介

## ～ 日田地区河川環境整備事業（その3）～

### 維持管理等

#### 三隈川河川環境整備 完成記念式典

工事完了後に、地元住民主導で「三隈川河川環境整備完成記念式典」が開催され、完成記念式典と併せて記念植樹が行なわれた。



#### 完成記念式典 実行委員会

- ・高瀬地区振興協議会
- ・日田市観光協会
- ・三隈川をデザインする会
- ・NPOひた水環境ネットワークセンター
- ・日田市民環境会議
- ・日田の川を考える会
- ・筑後川流域連携倶楽部
- ・日田漁業協同組合
- ・日田温泉旅館組合
- ・日田市ボート協会

今後の維持管理については、地元自治体と「水郷のまちクリーンアップに係る協定(通称アダプトプログラム)」を締結して、美化清掃活動を行う。

アダプトプログラムとは、住民が公共施設等のボランティアで美化活動や管理を行う制度で、環境美化に対する市民の意識の高揚を図り、行政と一体となった地域活動を進めていくものです。



階段護岸完成後は、島内堰湛水域を利用して行われるボート大会の観客席として、また毎年5月に行われる、「川開き観光祭」で打ち上げられる花火の観覧席として多くの人に利用された。



大正後期の台霧の瀬



橋脚の落書き



住民が思いを記した

施工前の台霧の瀬



維持管理は住民の手で



台霧の瀬プロジェクトの発足



川ガキが川に戻ってきた



# 台霧の瀬プロジェクト

測量は地元高校生が実施



地元の高校生が橋脚を  
キャンパスにして



台霧の瀬の完成



出来るだけコンクリートは  
使用しなかった



設計もプロジェクトメンバー  
が実施した

